



技術士だより

—(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター秋季号<第21号>(平成6年 9月15日発行)

◇巻頭言

挑む

土居 貞夫 (九州支部・センター顧問前支部長・会長)

「技術士だより」がいつも待ち遠い。この「だより」も20号を数えるに至った。早5年の歳月が過ぎたことになる。創刊号を刊行したあの日あの頃のことを、今思いだしては過ぎた日々が懐かしく、又反面、毎年に充実されゆくこの紙面を見て、編集に携わる方々のご苦労を思わずにはいられません。この「技術士だより」も、創刊時は4頁でしたが、今20号では16頁になっている。その内容に至っては、その創刊号に、私の辞として「少ない紙面の“技術士だより”」であります。良い企画に恵まれ、皆様のご助力が戴けるならば、より充実した紙面となることを確信して、明日へ踏み出す第一歩としたい」と、巻頭言に、私の提言に、そして日々の支部・センターの委員会活動に、部会活動にと、各事業と行事等、又会員の消息など、原井支部長・会長を始め役員と会員一致団結し、そのモットーとする“継続は力なり、数は力なり、協調は力なり”を運営の基本とし、前支部及びセンターの基本企画を、立派に取組み継続されて、今日の支部・センターを飛躍発展向上されたその努力に対して、私は心から感謝を申し上げる次第です。

継続これ即ち新しいものへの一段階、これにて止まるわけにはまいりません。尚尚、反省と前進を重ね試行錯誤の繰返しで、新しき次なるものへと挑むものでなくてはならないと思います。

挑む、九州支部主催の第7回地方公共団体職員と技術士との合同セミナーが、佐賀県技術士会(代表幹事向井治孝氏)と他業種との共催にて、7月18・19日の両日佐賀市において盛大に開催されました。このセミナーに参加なされた人の数は、官公庁側から328名を始めとし、一般の方々は137名、技術士の方は94名、大学関係者は25名で、他に諸団体からの会員の方が178名で、合計で、なんと762名という大人数で、その堂に満ち溢れ会の終わるまで誰一人として立ち去る人がいなかったと聞きました。社団法人日本技術士会において、過去現在で、私の知る限りにおいて、この類の会合で集まった人の数では未曾有のことではないでしょうか、私は何も知らずに、その参加者の数の余りの多さに吃驚致しましたが、原井支部長さんからの知らせを受けて、本當だと知り、改めて向井さんにお喜びを申したことでした。本当に近来稀なこととて筆舌も及びませず、その勞を称賛されなければならぬと思います。

会員の皆様には深い経験がおありでしょうが、この種の会合で参加して戴ける人の多寡が最も気になる所です。思い起こしてみるこの三月、久方振りに佐賀に参りました折、向井さんの会社にお伺いしました。社長さんはこのセミナーに随分とご心労なされているようで、その決意の程を知り、私は向井さんの人となりを知る者として、きっと立派に成功させてくれるものと確信致しておりました。向井さんを始め佐賀の会員の方々の努力を思い、又支部役員及び会員の一一致団結とその思い入れを込めた、そしてその努力の限りを尽くされた結果で、その限りを尽くすか尽くさぬかによって自ずとその賭けは決まるものだと、私は常に座右の銘として心に留めるものです。その結果が、向井さんを始め皆様方の努力が報われた最高の挑戦であったと思います。

(次ページにつづく)

(巻頭言のつづき) このセミナーは来年長崎において、長崎県技術士会の主催で開催されますが、先日長崎の会員の方から、福岡会長さんのもと着々と準備が進められていますとの知らせを受け、いよいよ8年目の大詰め、是非頑張って戴きたいと思っております。“終わり良ければすべて良し”とか、このセミナーの初心に、今一度振り返って見るのも意義があろうかと思います。

昭和54年5月科学技術庁が、技術士と都道府県職員との情報交換の場を提供ということで企画し、併せて技術士制度の普及と、技術士業務の開発を目的として東京で開催しました。第2回以後、昭和57年から日本技術士会が主催し科学技術庁が後援で、第5回昭和60年度で始めて地域ブロック単位で、中部支部の主催で開催されるまで東京で58・59年と実施されました。続いて昭和61年度は北陸支部で開催、続いて昭和62年度第7回大会を、九州支部でやってくれないだろうかと、当時本部の松本健次事業委員長からの要請がありました。その頃では、昭和63年10月に開催される第15回技術士全国大会の準備で多忙な日々でした。このセミナーの準備も大変だから両方は同時に出来ないと断わることも出来る状況でしたが、私は考えました。今ここで断わることは容易でしたが、断われば私の負けだと思い、よおし、己を殺してしまえばやれると覚悟して引き受けました。これから先は自分との戦いで済むこと、忘れもしません昭和63年3月24日、私の地元北九州市で九州各県のご後援という御墨付きを戴いて開催に挑戦出来た訳です。これが機縁で、技術士制度の普及とまたとない地域のPRにと、又支部会員の業務開発の一助となればと、支部主催で九州各地域のブロック単位で、第1回を平成元年3月24日熊本県技術士会で開催を御願いしたわけです。会長の青山さんもそれならばと快く引受けて戴きました。その日演壇に上がった時の私の挨拶を今でも鮮明に覚えております。挑んで成就した喜びであったと思います。

その感激が翌年鹿児島で、続いて宮崎とそれぞれの地域の特異性を掲げて、所期の目的を達成されたことは、顧みてこのセミナーは皆様方の賛同をえ、本当に長い道程で長い歳月をかけて、その衝にあたられた皆様方のご苦労を多と致すところです。この成功は取りも直さず会員の皆様方一人一人がこのセミナーの意義に理解挑戦なされたことが、アップされた所以だと思います。

さて、来年で、8年続くこのセミナーも、長崎でハッピー エンドとなるわけですが、この後公共団体と技術士との関係は、それぞれの地域でこれを機縁により良い親密な関係を末長く構築され、業務の開発を進める由と御願いするわけです。私達は更に年来の宿願である、一般地域社会に技術士業務の浸透を図らなければならないと思います。そこに私達技術士の自力の挑戦があろうというものです。誰かがやらなければならないことを今それに挑もうとするものです。

ある市長が言った「技術士、それは無線士ですか」と、又ある市長は言った「技術士は試験が難しい」ただそれだけで後の語りが続かない。こんなことで我慢が出来ますか。身体の具合が悪ければ医者に、身に禍をおよぼす時の法律相談の勉強には弁護士に、あと一つ、わからない仕事(技術)のことは技術士に頼もうと、これぞコンサルタント エンジニアと呼ばれるに相応しい私達の道、さあ、それに挑もうではありませんか。

技術士が思い続けてきた技術士への独占業務の付与とは一体何だったのだろうか、技術士法案が衆議院本会議で可決された直後、昭和32年4月技術士法の速やかな制定を求める要望書が、日本技術士会から出されたが、同要望書の中に、技術士法案の問題点として、法案の成立施行後、技術士が各技術分野にわたり充実強化をみた時に、本法案を改正して、技術士に独占業務を付与することも強調している。あれからもう37年、これぞ正まさしく絵にかいた餅、取ることも出来ず喰うことも出来ず、諦めざるをえないとするならば、折角作った技術士法を、技術士制度の普及と業務の開発にとPRを、来年度の長崎での地方公共団体職員と技術士との合同セミナーが終わりとするならば直ぬのこと、一般地域社会の民間と中小企業とを取り込んだ、公共の福祉の増進となる企てを起こそうではないですか。

(次ページにつづく)

1人でも多くの入会をお勧め下さい

(巻頭言のつづき) 技術士に高い技術指導料を払って成功して感謝すると言った成功例が、現在の何倍か、何十倍か、何百倍、何千倍かにした時、日本の一般社会が技術士の存在を大いに知るであろう。その事で、知・徳・技に優れた優秀な技術者が技術士資格を得ようとして、技術士の数が現在の何倍か、何十倍もにすることが出来るというものです。これこそ技術士会の努めであり、これに向かって私達は挑むべきではないですか。いや挑まなければ私達の未来があるのだろうか。

最後になりましたが、今少し言葉足らずでしたがお許しを願い、私の言いたいのは人間何事も前向きに挑み続けることこそ、貴方の人生を生き抜く為の明日への道ではないでしょうか。

挑む、常にその心意気を持とう、私はそれを言いたい、いい人生を楽しむ為にも。

† 私の提言

「学生諸君を科学技術へ誘おう！」

—よりオープンな活動を求めて—

堤 八恵子（福岡・建設）

暑い夏を迎えると、あの技術士受験の頃がなつかしく思い起こされる。合格の喜びもさめやらぬうちに、YCE福岡の会をはじめ様々な技術講演会、研修会にお誘いいただいている。残念ながらそれらへの出席率は極めて低く、紙面を借りておわび申し上げる次第である。

最近、技術者数が今後の入札制度における企業評価の大きな要素になると聞き及び、技術士の重要性を再認識するとともに、技術のレベルアップ、制度のアピールの必要性を痛感している。技術の修練に加え、地域社会発展への貢献、技術士の社会的評価向上のために日々と活動を続けられる諸先輩方を見習って、これからは積極的に会の活動に参加しようと思を新たにしている。こんな新米技術士の私が、新米らしい提言(?)をひとつ…。

私の勤務先は、都市計画、造園分野を中心とする建設コンサルタントである。いろいろノ

ノな所で知り合った大学の先生から、学生のアルバイトや就職のお世話を依頼されがあり、夏休み前後になると様々な学生諸君の来訪を受ける。近年の学生は情報が豊富すぎるのか、分析能力や気概が衰えたのか、自分の意向があいまいままで来る場合が多い。そこで、コンサルティング業務や業界の実情を説明し、彼らの希望を聞き出して、かかるべき職種や企業を紹介したり、以後の就職活動や学習方法等の指導を親切(?)に行った上で送り返している。

そんな時いつも歯がゆく思うのは、学術研究と実務との関係に対する知識の欠乏とともに技術士の知名度の低さである。会への出席の悪さの言い訳のようだが、会の活動がよりオープンであれば、このような事態も減少するようと思われる。学際的な活動も多い会員の皆様、その高度な技術と応用の世界を、会員予備員である学生諸君にアピールする機会を制度的に設けてはいかがでしょうか。

日本技術士会近況

原井 東男 (理事・九州支部長)

◎平成6年度第1回支部長会議 (要約)

日時：平成6年7月25日(月) 13:30～17:00

場所：虎ノ門パストラル新館3F

担当：北陸支部

議題・意見

・理事の選挙制度の改正について

(本部・北海道・近畿)

・P. E. 制度について(本部・中四国・北陸)

・自治体監査業務について(北陸)

・技術士補対策について

(中四国・北海道・東北)

・都道府県支部設立について(中四国)

・公共団体セミナーについて(北陸・九州)

・技術審査の自治体へのPRについて(北陸)

・その他日韓技術士会議・全国大会について

以上の議題に対し、討議意見交換を行った結果

・選挙制度については理事会報告に記載

・P. E. 制度導入については、技術士制度に混乱を招くので反対すべきであり、対抗態勢を整える必要がある。

・工事監査業務は、フリーであること、技術士で建築士であることが望ましい。任意団体で工事監査懇話会で行っている。

・技術審査業務については支部の意見を入れること。

・補対策は具体性に欠けるが、制度改正、身

分の位置付け・RCCMやP. E. 制度対応も併せ検討の要あり。

・合同セミナーの今後のあり方について次回までに提案。以上

◎平成6年度第2回理事会報告 (要約)

日時：平成6年7月13日(水) 12:30～16:00

場所：日本技術士会会議室

○審議事項

理事選挙方法の一部改正について審議したが、再度会員の意見を集約し、第3回理事会で結論を出すこととなった。

(内容) 今回は、細則の変更にとどめ、定款改正を伴う抜本的改革については、今後の検討課題とし、以下のとおり提案があった。

(イ) 立候補者の推薦…立候補者は、所属する支部又は部会の会員10名以上の推薦を必要とする。推薦する候補者数は制限しない。

(ロ) 理事の選出方法…得票数が30票以上獲得した候補者の中から、各支部、各部会ごとに最高点者1名とする。定員に満たないときは30票以上獲得した残余の候補者の中から高点順に選出する。

(ハ) 部会からの立候補…支部所属の会員は、所属する部会からも立候補することが出来る。以上

技術士会九州支部・九州地方技術士センター

行事・会合などの報告

◎支部センター行事

平成6年度第1回合同役員会議

1. 日時 平成6年6月25日(土) 13:00～16:00

2. 場所 福岡商工会議所604号室

九州支部定員30名

出席18名 委任状7名

九州地方技術士センター定員33名

出席16名 委任状11名

3. 審議事項

(1) 平成6年度事業計画(案)について

(2) 平成6年度常設委員会事業計画(案)

1. について

(3) 平成6年度各地区事業計画(案)について

(4) 平成6年度各部会事業計画(案)について

(5) 中四国支部、沖縄県技術士会と九州支部合同研修会について

(6) 第2回西日本技術士研究・業績発表年次大会について

・青年技術士懇話会の組織

・青年技術士発表予定者

(7) 合同セミナーについて

(次ページにつづく)

- (行事・会合などの報告つづき)
(8)「公共事業技術審査人材バンク」への取組みについて
(9)その他

◎平成6年度事業計画 (案)

- (社)日本技術士会九州支部及び各支部との情報交換を密にすると共に、会員相互の信頼と協調を基とし、会員の品位と実力を高め、技術士の活性化と社会的地位の向上発展を目指すことを基本方針として各事業を行う。
- (1)地域の振興に密着した技術士業務の充実強化と業務拡大に努める。
(2)会員の増強を進める。
(3)(社)日本技術士会九州支部及び九州地方技術士センターの運営充実を計る。
(4)第7回九州地方公共団体職員と技術士との合同セミナーを行う。
(5)九州支部と中四国支部・沖縄県技術士会との合同研修会を行う。
(6)西日本技術士研究・業績発表年次大会を行う。
(7)会員の能力向上を目的として、実務研修会及び啓発のための各種研修会を開催する。
(8)各技術部門別見学会・研修会を開催し、活性化を計る。
(9)企業内技術士の地位の向上、青年技術士懇話会の組織化を進める。
(10)地域間交流、海外交流を積極的に進める。
(11)技術士試験の実施を積極的に支援する。
(12)技術士試験受験希望者対象の説明会・研修会を行う。

◎平成6年度常設委員会年次計画

- (1)支部・総務委員会(委員長 重富秀雄)
1)会員増強運動の実施(平成6年10月～平成7年3月)
特に大手企業内技術士の組織化を要請し、入会の増強運動を進める。
2)賛助会員、賛助広告の加入、募集運動の実施(平成6年10月～平成7年3月)
3)他委員会との連絡を密にし、協力に努める。
4)“技術士だより” “会員名簿”作成の為編集委員会を随時開催する。
5)事業委員会に協力し、沖縄県技術士会との交流を実施する。

- (2)支部・試験委員会(委員長 政野光男)

↗ 1)平成6年度 技術士第2次試験	6月27日(月)	第1回 試験委員会 試験監督員候補者名簿の作成
7月15日(金)	8月5日(金)	試験監督員名簿の提出 第2回 試験委員会 新任監督員に対する監督要領の説明会
8月23日(火)	8月24日(水)	試験会場の設営準備 九州大学工学部 平成6年度 技術士第2次試験 筆記試験実施
8月25日(木)		(建設部伊引) (建設部伊引以外)
2)平成6年度 技術士第1次試験	9月5日(月)	試験監督員候補者名簿の作成
9月12日(月)	10月9日(日)	試験監督員名簿の提出 平成6年度 技術士 第1次試験実施 東和大学
3)平成7年度 技術士第2次試験 受験申込者に対する説明会を 3月上旬 福岡市他7地区において実施		以上

(3)支部・事業委員会(委員長 笠木直行)

- 1)第7回合同セミナー「技術講演会」見学会
日時 7月18日～19日 マリトピア
佐賀市鍋島町八戸1369 佐賀導水外
2)第2回西日本技術士研究・業績発表年次大会及び中四国支部と九州支部の合同研修会
日時 7月29日～30日 トヨタ自動車
九州工場見学
福岡市博多駅前4-11-8博多パークホテル
3)第21回技術士全国大会
日時 10月19日 大阪市梅田ヒルトンホテル
4)第24回日韓技術士会
日時 9月29日 北海道札幌市
5)平成6年忘年パーティー及び研修会
日時 12月3日 博多パークホテル

(4)センター・育成委員会(委員長久保田信一)

- 1)能力育成総合講座
会場 福岡商工会議所 9:00～17:00
第1回 4月16日(土) 第2回 6月11日(日)
(次ページにつづく)

- (行事・会合などの報告つづき)
- 第3回 6月12日(日) 模擬試験
- 第4回 7月23日(土) 直前対策
- 11月19日(土) 口頭試験対策
- 2)新技術士の研修会で研修委員会に協力
- (5)センター・研修委員会(委員長 町田貞徳)
- 1)会員研修新技術士の研修会及び合格祝賀会
日時 平成7年2月25日(土)
於 福岡商工会議所
- 2)事業委員会、育成委員会に協力
- (6)センター・活性化委員会(委員長 斎藤清美)
- 1)第2回西日本技術士研究・業績発表年次大会の支援
(平成6年7月2日、福岡市にて準備会議予定)
- 2)九州地方における懇話会の組織化、
支援活動
(平成6年9月、熊本市内にて開催予定)
- 3)官公庁、関係機関に対する「技術士研究
抄録、平成7年10月」
等の配布による技術士のPR活動
(平成6年10月、大分県にて
報告会議予定)
- 4)技術士及び技術士会の活性化に関する
意見集約審議等
- 5)その他

- ◎平成6年度各地区年次計画
- (1)福岡地区(代表幹事 水上信照)
- 1)地域の振興に密着した技術士業務の充実強化と業域拡大に努める。
- 2) (社)日本技術士会本部、支部、センターの活動に積極的に参加し、推進母体となる様努力する。
- 3)本部、支部主催の行事に積極的に協力し、会員に参加を促す。
- 4)会員増強を強力に推進する。
- 5)YCE福岡の活動を支援し九州地区の青年技術士の組織化を進める。
- (2)北九州地区(代表幹事北原徳雄)
- 1)地区月例会は原則として、毎月第3土曜日に開催する。
- 2)北九州商工会議所特別窓口技術相談に地区会員が専門相談員として毎月第3第4月曜日午後技術振興に協力する。
- 3)技術交流講演会を開催。

- ↗ 4)国際協力事業団(JICA)九州国際センター(KIC)の研修機関構成員に積極的に参加する。
- 5)北九州市主催、融合化製品開発システム支援事業、技術診断業務及び福岡県技術アドバイザー業務等の遂行。
- 6) (株)北九州テクノセンター、技術相談事業(仮称)に地区会員が専門相談として支援を行う。
- (3)佐賀地区(代表幹事 向井治孝)
- 1)技術士への受験促進のPR、第1次第2次試験、受験説明会。
- 2)関係機関への会員増強活動
- 3)他協会との講演会、研修会の共同主催及び講演会、研修会への積極的参加。
- 4)新合格者の祝賀会及び総会の開催。
- (4)長崎地区(代表幹事 福岡辰義)
- 1)長崎県技術士会役員会 5月中旬
- 2)総会 5月下旬
- 3)長崎県技術士会名簿並びに技術研究発表特集の配布5月~6月
- 4)青年技術士会見学研修会 10月中旬
- 5)第2次受験申込書配布説明会
平成7年3月中旬
- (5)鹿児島地区(代表幹事 青山次則)
- 1)地域の振興に密着した技術士業務の充実強化と業域の拡大に努める。
- 2)会員の増強を進めるとともに、会の組織及び運営の充実を計る。
- 3)第一次、第二次試験受験案内及び説明会。
- 4)九州国際空港シンポジウム平成6年4月7月8月熊本市、大牟田市、他3市。
- 5)第5回セミナー 平成6年12月
- 6)土木学会主催「土木の日」の事業支援活動
- (6)大分地区(代表幹事 今村欽一)
- 1)大分県の振興に密着した技術士業務の充実強化と業務の拡大に努める。
- 2)技術士活動の活性化、分けても青年技術士活動の活性化を強化する。
- 3)大分県産業振興課や大分県工業団体連合会等の主催による研修会に積極的に参加し、能力の向上を図る。
- 4)技術士会九州支部や九州地方技術士セン
(次ページにつづく)

- (行事・会合などの報告つづき)
 ターの主催する研修会、見学会に参加し、
 能力の向上を図る。
- 5)第一次第二次試験受験者の勧誘を積極的に
 行う。
- 6)地域間交流、海外技術交流を積極的に行う。
- 7)会員の増強を積極的に進める。
- (7)宮崎地図 (代表幹事 新城精一)
 1)会員相互の交流、懇親を深める。
 (総会、懇親会、ゴルフコンペ等開催)
 2)技術士PRへの積極的な取り組み。
- ↗ 3)会員増強への積極的な取り組み。
 4)支部主催行事への積極的な参加
 (合同セミナー等)
- 5)技術士、技術試験書類配布説明会の実施
 (6月3日/12月5日/4月15日)
- 6)現場見学会の開催 (6月10日)
- 7)「宮崎市都市景観賞」後援 (6月10月4日)
- 8)「土木の日」共催 (6月11月18日)
- (8)鹿児島地図 (代表幹事 上野光夫)
 1)技術士会本部及び支部の事業活動に協力。
 2)会員名簿の作成及び配布。
 3)研修、講習会懇親会の開催。

□ 支部・センター委員会・部会だより

◇ 部会だより (平成6年度年次計画)

◎第1部会(機械、電気・電子) 会長 山谷三郎

(1)期日 平成6年9月2日(金)13:30~17:00

場所 福岡市博多第一ホテル
 議題 部会員保有技術相互発表
 イ. 沈埋トンネル工事における施工機械
 設備について 機械 田中正人
 ロ. 原子力発電の現状と将来
 機械 小林良一
 ハ. 半導体製品の原料製造と加工方法の
 概要 電気・電子 町田貞徳

(2)見学会予定

期日 平成6年11月4日(金)
 玄海原子力発電所

(3) (1) の内容で平成7年3月実施予定

◎第2部会(応用理学、建設) 会長 川崎健一

(1)海外研修見学会(韓国大邱、慶州、

釜山、昌原)

期日 平成6年7月6日~9日

参加人員 40名

(2)第4部会共催浄水場及びダム見学

期日 平成6年8月9日(火)

見学施設 福岡市水道局多々良浄水場
 及び長谷ダム

参加 17名

(3)工事現場見学懇親会

期日 平成6年11月上旬

竜門ダム及び菊池湯原の予定

(4)全部会合同研修講演会

期日 平成7年3月上旬(福岡市)

◎第3部会(金属、化学、資源工学)会長江崎親孝

↗ (1)部会員の交流懇親会

(新入会員の紹介も含む)

期日 平成6年9月下旬

(2)講演会(業務体験、研究発表を含む)

期日 平成6年11月中旬

(3)見学会(他部会と合同見学会)

期日 平成7年3月下旬

◎第4部会(水道、衛生工学) 会長 三原節夫 第2部会と共に研修見学会に参加

◎第5部会(農業、林業、水産)会長岡部九州生 農業林業の近代的事業施設の見学研修

期日 平成6年11月中旬

研修 (1)九州電力(株)電化試験場

場所 (佐賀市高木瀬町)

(2)やさい育苗センター

(鳥栖市富士町)

(3)技術講話 九大名誉教授 藤枝国光 テーマ 今後の農業とくに植物工

場(施設農業)への動向
 や見通し

(4)日程 1泊2日(宿泊 古湯温泉)

◎第6部会(経営工学) 会長 芳賀三千億

(1)長崎県技術士会との合同見学会

期日 平成6年10月15日(土)13:00~16:00

場所 三菱重工業(株)長崎造船所

(2)雲仙地獄めぐり、仁田峠、普賢岳噴火

災害復興状況視察

期日 平成6年10月16日(日)

宿泊 小浜町三菱製鋼(株)小浜保養所

行事レポート ◇ 第6部会・他部会との合同見学会

芳賀 三千億（第6部会長・長崎・経営工学）

日 時：平成6年6月10日(金)

見学先：午前 九州工業大学情報工学部
午後 トヨタ自動車九州(株)

参加者：8名

地 区	部 門	氏 名	
福 岡	機 械	山 谷	三 郎
〃	電 気・電 子	町 田	貞 徳
〃	金 属	江 崎	親 教
〃	農 業	完 戸	鶴 親
北九州	応用理学	江 畑	賢 一
〃	経営工学	小 松	榮 一
大 分	農 業	今 村	欽 一
長 崎	経営工学	芳 賀	三 千 億

◎九州工業大学情報工学部見学

キャンパス規模30.4万m²、車800台が収容可能という広大な学園、九州工大の「情報工学部」が情報革命のパイオニアをめざして、1986年、飯塚市に設立された。

見学は、小森解放協力係長のご案内で、国立大学では唯一の超LSI試作設備を有するマイクロ化総合技術センターを中心に見て頂いた。施設は、クリーンルームを始め、

設計用CAD、LSI加工プロセスラインなど、本格的設備を備えており、学生諸君は、この設備を利用しながらLSI技術を学び自分で設計し、自分の手でLSIを作ることが可能となるように仕組まれている。

◎トヨタ自動車九州(株) 宮田工場見学

周辺を緑に囲まれた32万坪の敷地に、最新設備を有し、マークIIなどを従業員数約2,000名、連続2交代で800台/日を生産している。

見学はスチュワーデスと見まがうコスチュームの美人のガイドさんの案内で行われた。

特に目立ったのは「働く人を大切に」をモットーに随所に配慮がなされている点である。例えば、ラインのコンペアをチェーンからローラに変更し騒音による不快感を無くしたり、作業台を各人で調節できるようになっている。ラインの中核に女性が働いているのは作業がしやすくなった証左と云えよう。

見学は14時半に終了し、山谷・町田両先生の愛車に便乗させて頂き、それぞれ帰途についた。(午前、午後の移動は両先生の愛車にお世話になりました。感謝しております。)

以上

行事レポート ◇ 第12回技術士研究・業績発表年次大会の参画報告

“地域の技術力向上を目指す研修講座”を発表

技術士能力育成講座担当：育成委員会
久保田 信一（福岡・建設・農業）

日本技術士会定例総会当日の6月22日に開催された標題大会第1日に、標記テーマを発表してきました。

「かって1割国家と呼ばれた九州は、高度に経済成長した昨今では国土面積が1割を保つだけで人口も産業経済の諸指標も6～7%と云われます。東京一極集中による地方の衰退でしょうか。地域内で一極集中する福岡市の、支店企業中心の産業構造が影響しているのでしょうか。技術士について観れば九州は、本会会員数が5.4%を占め乍ら登録者数では僅か3.3%に過ぎません。かような情勢の下で九州へ技術士を増やしたい、また技能者を

技術者へ育てたい、といった主旨の研修セミナーにつき、九州地方技術士センター育成委員会を代表して発表します。私、云々です。」

かかる口上から始め、9人中6番手の登場で出席者120名程を前にしての、冊子（注：会誌6月臨時増刊号）39頁以下へ掲載の報文紹介に続く“内容と業績”の項が主体なる肉付けの説明でした。「受講者や試験関係者へ多くの誤解を受けられる」との弁を挟んだ、「あくまで技術士になれる実力を育てるのが研修講座の骨子である」旨を特に強調した持ち時間25分の話を終え、意外にも鋭い質疑を受けて <次ページへつづく>

確かな手応えが感じられた次第です。この応募に際して提出した“要旨”を以下へ掲載し、報告といたします。

講師を引き受けて下さいます諸先生方のご苦労に謝意を表し、今後共宜しくご協力の程をお願い申し上げます。

記：応募要旨（制限400字以内）

技術を技能と誤解した技術者の存在から“玉磨かざれば光らず”的傾向が強いので、この人達を“光る玉”へ磨き育てることが地域経済の発展に重要である。九州地方技術士センターではかような趣旨で受験対策委員会を設け、会員が講師となる講座を定期的に開催している。

一次試験合格者を集めた講座では日常業務の取組み方を中心として、二次試験受験予定者を集めた講座では独創力ある考え方を中心として、共に技術士法第2条へ示された技術の本質を啓蒙することが講義内容の骨格をなす。即ち、教えて貰う人物の合格を図っても技術でなくなるため、主体的な応用能力が養える思考法を説く指導によって人材の開発を目指す研修が講座の内容である。

困難を極める講義の中身は改善余地を残し、その実績も十分でない現状にある。今後も更に磨いて技術士会と当センターの会員増強活性化へ寄与し、もって同法第1条の精神がより一層実現できるように充実させたい。以上

行事レポート ◇ 韓国研修見学旅行について

(A班)吉永辰雄(福岡・建設), (B班)小松栄一(北九州・経営工学)

◎ A班

当旅行は、平成6年7月6日～7月9日の3泊4日で、韓国南部(釜山、大邱、慶州)の建設工事現場の研修・見学と観光を目的に行われた。期間中は天候に恵まれ、総勢40名全員元気に当初予定の行程を消化できた。

○韓国の道路状況；高速道路の線形は、直線の多用、登坂車線の省略、側道・横断道路

が少ない。随所で拡幅工事中(4車線を6～8車線に)で、一部に中分マウントアップのない区間あり、有事の場合、飛行機の滑走路に変身する。お国柄か、またゴミ等の投棄禁止令により、一般道も含めきれいである。

○大邱直轄市地下鉄工事現場視察；明り掘削方式で、最深部は14mもある。ハッパによる岩掘削での振動等環境問題は生じていない



のこと、自動車交通渋滞対策として、この工事にかける意気込みの程が感じられた。

○大邱直轄市下水処理場視察；人口270万人の家庭排水と主な産業である織物・染色工場等の排水で河川の水質汚染がひどく、急遽建設されたもの。処理能力35 吋/日、今後、同クラスのものがあと5箇所計10箇中とのこと。

○釜山コンテナ埠頭設備視察；コンテナ輸送における東洋の拠点を目指しており、非常に活気に満ちていた。

○観光；仏国寺、天馬塚、国立慶州博物館等を見学、仏教文化が主体である。

○カラオケ大会；帰国前夜に“ノド”に自信のある有志23名により盛大に行われた。圧巻は、なんといっても最後に全員で歌った技術士会の歌であった。

韓国における社会資本整備の一端と観光名所の視察・見学、汗を流しながらの韓国料理等で親睦も深め、非常に有意義であった。水上団長以下幹事の方々、データニ シンセ・ジョッソヨ（大変お世話になりました）。

◎ B 班

B班の15名は、2日目に大邱から逆行して昌原の三星重工を見学した。5年前から技術指導されている高橋先生（金属部門）のお骨、

折りで、普通は難しい工場見学が実現した。

同社・金榮式工場長の挨拶から、会社案内のビデオまで全て日本語、見学は主に鉄鋼工場だったが、その案内も工場長と高橋顧問なので、詳しい説明が受けられた。三星グループは売上約500億ドル、世界18位（92年度フォーチュン誌）の大企業で、日本始め世界の一流メーカーから設備を購入し、多くの外国人顧問の指導を受けるので、この分野でも急速に世界のトップレベルに近づきつつあると感じた。

見学後、高橋先生案内の昼食が参鶏湯（サムゲタン）、一同暑さを忘れての舌鼓、この後訪韓の時は是非と思う料理の一つです。

この日は、本隊から別れて別仕立てのバスで若くて美人のガイド、韓国事情をこと細かに話して貰い楽しい旅の一日でした。

慶州のカラオケで、K長老の「黄色いシャツ…」に、店内にいた韓国人達が総出で我々を誘い、一緒に踊り日韓親善のひとコマもありました。

私にとって、今回の研修旅行は非常に得ることの多い楽しい旅行でした。水上団長始め各幹事、高橋先生、同行の皆さんに心から感謝いたします。（カムサハムニダ）。

以上

行事レポート ◇ 第7回合同セミナーの開催

向井 治孝（佐賀・代表幹事・建設）

平成6年7月18、19日、佐賀市において、「第7回官公庁職員と技術士の合同セミナー」として技術講演会を、皆様のご協力によりまして盛大に開催しました。

今回は研修の場を広げる意味で、「官、学、民」の合同セミナーを試みました。これは研修の広域化を図るとともに、技術士の存在の意味を広く認識して貰い、技術士会の活性化を進めたいという考えて企画しました。特に佐賀県の場合、佐賀県技術士会員は僅か23名（内公職者9名、支部会員3名センター会員9名）です。このため官学民の各層に強く認識を広げることが肝要と考え、業務上関連性の強い「社団法人佐賀県測量設計業協会」と共催いたしました。そして、建設省、農林省、佐賀大学をはじめ佐賀県、佐賀県建設技術協会（官公庁技術職員の会）、土木施工管理士会から積極的なご支援ご協力を戴きました。テーマを「人と自然に優しいエンジニアリング」

とし、今日、重大な社会問題になっている環境、景観問題を選びました。第1回から第6回までのセミナー（別表）と実施方式が異なり、一部ご意見もあったようですが佐賀県としては、もちろん単独開催を第一義と考えますが、本県の特異性と諸般の事情を考慮した上で、試行的に共催方式を探って見ました。その結果は参加者総数762名となり、その内官公庁からの参加者は328名で参加者の43%を占めたこと、聴講者が最後まで減少しなかったこと、終了後官庁を始め各方面から好評を得たことなどから有意義な合同セミナーだったと思っています。

（講演会のプログラムは紙面の都合で省略）

今回の講演会の総経費は約350万円（内技術士会負担、支部40万円、会費23万円、佐賀県技術士会32万円、計95万円）を要しました。参加者は762名で内訳は次のとおり。

官公庁	一般	技術士	大学	計
328	315	94	25	762名

以上第7回合同セミナーについてご報告します。

別表

官公庁職員と技術士との合同セミナー 記録

回数	開催場所	開催日	主 题	参 加 者				
				官公庁	一般	技術士	大学	計
1	熊本市	H1. 1.24	地域の活性化に必要な技術行政と技術士の連携と役割	43		45		88人
2	鹿児島市	H1.11.14	同 上	36		70		106
3	宮崎市	H2.11.13	地域の活性化と産業基盤の整備。中小企業を中心とする地域産業の活性化とその事例	27		68		95
4	大分市	H4. 1.24	地域振興の課題と技術士の役割	15	7	59		81
5	北九州市	H4.11.13	地域の活性化と技術士の役割	8	7	82		97
6	福岡市	H5.11. 5	九州の地域振興・活性化に果たす行政と技術士の役割	13	17	142		172
7	佐賀市	H6. 7.18	人と自然に優しいエンジニアリング (環境、景観)	328	315	94	25	762人

◆ 働けト ◆ 中・四国支部、沖縄県技術士会、九州支部 合同研修会

重富 秀雄（総務委員長・福岡・経営工学）

日時：平成6年7月29日(金) 13:30～

場所：博多パークホテル

工場見学：トヨタ自動車九州㈱宮田工場

猛暑が続く博多の街に、中・四国支部、沖縄県技術士会から、新幹線や飛行機を利用して博多駅に皆さんか到着、総勢60名を越える技術士会のメンバーが貸切バスで、宮田工場に向けて出発。車中ではバスガイドさんの軽妙な博多弁で、博多の街のみどころなどを和気藹々の雰囲気の中で聞くうちに、アッという間にトヨタ自動車九州に到着した。

宮田工場はトヨタの各工場の中でも最新鋭の組立工場で、コンベアシステムのライン上を、パーツの搬入から完成車までの流れ作業を見学することが出来た。広い敷地の中に、

それぞれの組立工場のカラーコンディショニングが印象的であった。

博多パークホテルに到着し、各支部の情報交換を行い、今回は特に本部業務委員長の鈴木清理事に、“入札、契約制度の運用と技術士の活用”についての講演をお願いした。

研修会の後、研究・業績発表に参加される関東地区の方々も参加して合同懇親会を開催し、盛会裏に午後9時散会した。

今回はじめての参加となった沖縄の伊志嶺会長から、九州とは今後も連携を強化しつつ、これから技術士会のあり方について、前向きに取組んで行きたい、との意思表明もあり来る9月7日(水)那覇市で、九州と沖縄との懇談会を実施することが決定した。

◆ 働けト ◆ 第2回西日本技術士研究・業績発表年次大会

真鍋 和義（福岡・水道）

地区で受持ったものです。

午前9時笠木事業委員長の司会進行により始められ、あいさつの後A・B 2会場に別れ
<次ページにつづく>

て研究・業績発表がされた。各人持ち時間20分の発表で、午前中A・B会場共に8人の発表を終え、昼食後A会場に合流し残り3人の発表を聞いた。各人OHP等を活用し、要領よくほぼ制限時間で発表を終了。中には終了のベルと同時にびったり話し終えられる方もいて、非常にスムーズな進行で、内容のレベルの高さと相まってさすが技術士会の感あり。

後半は基調講演に続きパネルディスカッションが行われた。講師・パネラー・テーマ等は次の通りです。

- ・基調講演 「技術士活動の新たな展開」
技術者の生涯教育問題研究会 総括幹事
岡本 邦彦 先生
- ・パネルディスカッション
- ・テーマ ①企業内技術士の活性化

- ②技術士業務の領域拡大
- ・パネラー（6名）
関東(岡本邦彦、永井雄一)、近畿(木戸賀晃)
中・四国(小田秀樹)、沖縄(伊志嶺安進)
九州(森下明憲)
 - ・コーディネーター
水上信照(九州支部副支部長、福岡)
 - ・サブコーディネーター
吉田紘彬(熊本)、斎藤清美(福岡)

種々論議されたものの、今一つ噛み合わず具体策までの収斂に至らず布石段階に留まったの感。技術士資格取得を「終点」と心得る眼れる企業内技術士の眼をいかにして覚まさせるか、みんなで考えよう！

以上

行事レポート ◇ 多々良浄水場・長谷ダム見学会報告

去る8月9日(火)、第2部会と第4部会の合同による技術研修見学会が、福岡市東区の多々良浄水場及び長谷ダムで行われ、炎天下にもかかわらず15名の方が参加されました。

多々良浄水場は、昭和63年7月から給水を開始しており、現有施設能力65,000m³/日、最終施設能力122,000m³/日です。

会議室で全体の説明を受けた後、着水弁、活性炭接触池、と水の流れに沿って順次施設見学をさせて頂きました。浄水施設では、通常の浄水施設である薬品沈殿池、急速ろ過池に加え、活性炭接触池、中塩素消毒施設を有しているのが特徴でした。また、中央管理室で、水源まで含めた全ての施設の稼働状況を監視・制御することができる管理システムが目をひきました。全ての水源と浄水場を、通常は2人で管理されているそうです。

次に浄水場より約3km離れた長谷ダムへ向かいました。

松田 研志(福岡・水道部門)

長谷ダムは、高さ53.8mの重力式コンクリートダムであり、有効貯水量4,850,000m³、1日最大取水量31,500m³です。貯水池は、集水面積が狭いため、多々良川下流の多々良取水場から豊水時にポンプ揚水して貯留しています。また、水質保全のため空気揚水筒が設置されていますが、休止中のデータを取るため、見学時は稼働していませんでした。

施設は、中央管理室と取水施設を中心に見学させて頂きました。

最後になりましたが、給水制限中の多忙な折りにもかかわらず、熱心にご説明して頂いた中島場長、野口さんに心からお礼申し上げます。

水不足の最中に、満々と水を湛えた貯水池を見た時は、まさに宝物を見る思いでした。

長谷ダムは平成5年度に完成したばかりであり、実にタイムリーな竣工であったと思います。

以上

隨想

香港・広州・マカオ見聞録(その5)

矢野 友厚(センター副会長・福岡・建設)

巨星・孫文と中山県の方々

○ 孫文先生の生涯

・広東の農民出身の華僑の一家に生まれ、14～19才までハワイ在住の兄を頼って海外渡航その後医学を治めたが、当時中国は、満州民族の清王朝の圧政下にあり、<つづく>

義憲やるかたなく「国民の個人を治療する小医より、国を救う大医になるべきである」として革命運動に身を投じたのである。

・1,900年末、第2回目の武装蜂起を実行したが戦い敗れ日本に亡命。

・孫文が提唱した革命理論は三民主義といわれ、民族主義（民族の独立）民権主義（民主の安定）を内容とし、孫文の死後も基本理念として受け継がれている。

・孫文は特に日本では犬養毅を理解者として熊本県出身の宮崎滔天を盟友として親交があった。

・体制派軍人、山県有朋からは圧迫された。

・1,911年10月10日夜、遂に革命成功、これが双十節の所以である。

・1,912年正月、大統領に就任、中華民国発足。ここに277年間の清王朝は滅亡した。

・1,915年(大正4年)日本の大隈内閣が中国に対する権益拡大のため袁政府に21ヶ条の要求を行ったのが原因で、激しい抗日運動が起り、日中間の仲を長年にわたり裂く因となった。孫文はこのことを大変残念がった。

・1,925年、癌のため死去。

後継者の一人、汪兆銘に対し口述で遺言、「余は国民革命に力を致すこと40年、目的の到達には吾が国の民衆の力と、中国を平等に待遇する世界中の民族と連合して戦わねばならぬことを知り得た……」志半ばにして逝った孫文の絶句である。正に巨星墜つ…。

〈紙面の都合で、今回はこれまで。
次号に続きます〉

隨想－ていあん 役／“技術士だより”に書評を

最近北部九州では渴水が大きなニュースになっています。

渴水に関する情報はマスコミが連日大報道をするため、渴水のことなら全く努力しないでも、あらゆる情報が与えられる状況です。

技術情報も、本当に今必要な情報だけを、こんなに楽に受動的に与えられたら有難いのですが、実際にはあらゆるジャンルの雑多な情報の中から必要なものだけを探し出し、整理するのは、かなりの時間と根気の要ることです。

私も社会の動きを見ながら必要な情報を取り入れることに、それなりの努力をしているつもりです。数冊の専門雑誌の購読、職場で回覧される数冊の協会誌と専門新聞などですが、職場では忙しさから余りゆっくり見ることが出来ないのが残念です。

近刊の専門書なども、たまにはじっくり見たいのですが、仕事が終わって外に出れば、書店にはいる前に友人と冷たいビールの方に行ってしまうことが多い。

そんなことから、いかにも効率的に、良い、役に立つ専門書に出会う方法はないかと、怠

明石 弘二（福岡・建設）

ノン心で考えたのが、この“技術士だより”です。

会員はその道の専門家ばかり、その専門製を生かして、“これぞ”と思われた新刊書があれば、短評をつけて紹介して頂けたらこんなに有難いことはありません。

また、専門だけでなく、幅広く、人生を語るもの、趣味など、何でも本人がこれと思えば、無責任に感想を付けて紹介して頂くのも面白い。ひょっとして、まだ知らない扉を開けてみるチャンスになるかも知れません。

専門ははじめて、趣味等は遊び感覚で、この“技術士だより”に書評が載ることで、私の情報源の一つになることを願っています。

★投稿を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会員会社の紹介など、技術的なことは勿論会員の受賞などのニュースもお願いします。積極的な皆さんの投稿をお待ちしております。

(200字詰め原稿用紙2~3枚程度を目安に、支部事務局宛てご送付下さい。)

隨想 ◇ 青年技術士へ捧ぐ判断力を高めるために

全ての人は、職種、地位の如何を問わず日々の問題に直面し、判断、または決断というものを迫られます。それぞれの問題に直面した時発揮される力を判断力などといい、“あの人には判断力が優れている”などと評価しています。

人生とは、おかげさにいえば判断の連続で出来上がっているとも言えます。このため、「判断力を身につけたい」という思いは誰もが持っている共通のテーマです。

そこで、私は判断する際のチェックリスト、または要素といったものを次の5つで行うようにしています。

①本質的にどうあるべきか

②人間や社会の発展に結び付けて考える

前田 秀人（佐賀・建設）

③「やる」「やらない」に加えて、「いつ」という要素を加える

④「正しかった」というように見せることが大切

⑤確信を持ってやる

以上が、判断する際の基準ですが、この中で最も注意すべきは、③の「いつ」という要素を加えることです。この“いつ”がなければもの別れになるものも、この“いつ”で説得が可能になり、合意に持ち込むことになるでしょう。立場が上になればなるほど大きな決断をしなければならないし、プレッシャーも大きくなるでしょう。自分なりのチェックリストを作つておかれることをお勧めします。

技術レポート ◇ 廃棄物のリサイクル技術について —パルプモウルド製造技術—

角田 正治（北九州・機械部門）

一期一会の人と人の出会いのように、技術と人はある時に突然接し、人はその技術のとりこになる。

今私のパルプモウルド製造技術の関係が、若い頃の恋人との出会いのようなもので、すでに知つてから十年近くなり、2回工場を建設し、3回目にチャレンジ中である。

客先のプロセス技術であるので、当方の思い通りにはならなく、片思いが募っている。

廃棄物のリサイクル技術は色々な分野で多岐に渡るが、故紙の再利用は一般的に、脱墨、脱色して製紙原料に使われている事は広く知られている。初めてパルプモウルドの言葉を耳にした時、イメージとして紙製の固形物と解釈したが、「紙製の卵パック、リンゴパックに代表されますが、色々ありますよ。」と言われてこの言葉の意味が理解できた。

パルプモウルド品を定義すると、『故紙原料を水溶解し、三次元体に一発成型後乾燥した折目や継目のないもの』である。

まわりを見渡すと、ほとんどの紙製品は、平面か、平面材を折り込んだ立方体（段ボール箱等）である。一方プラスチック品に、三次元体が多く見られるのは、熱溶融成形冷却により簡単に製造できるからであろう。

同じ繊維原料からなる衣類等に比べると、パルプモウルドの製造方法は単純で、水が溶媒と搬送手段で、溶解分別、成型、乾燥の製造工程であり、原料コストも安く（約30円/kg）歩留まりもほぼ100%に近く、今後とも我々技術士が力を注ぐべき、廃棄物のリサイクル技術として、守り育てる必要があると考えている。近年パルプモウルドは樹脂製包装材に替わり、バイオニア社のカーステレオやコニカ社のコンパクトカメラ等の包装用に使われ始めている。樹脂等に替わる素材として各種使用先があると考えられている。

（投稿日 1994.6.24, なお、本稿は北九州地区6月例会発表の概要である。）



会員ニュース



★ 九州地方技術センター正会員、建設部門・鹿児島地区 加藤正司先生が平成6年6月4日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

☆(社)日本技術士会(九州支部)入会

-以下敬称略、受付順-

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先)
熊本	正頸	田崎 順二	建設	〒869-24 熊本県阿蘇郡西原町大字布田834-28
北九州	〃	時永 準一	電気電子	〒805 北九州市八幡東区茶屋町12-22
福岡	〃	山手 弘之	建設	〒814 福岡市早良区原2-13-25 カリヨト原302号
〃	〃	佐藤洋二郎	〃	〒841-02 佐賀県三養基郡基山町宮浦486-138
〃	〃	安松登志夫	水道	〒830 福岡県久留米市津福今町308-6
北九州	〃	末松 正典	機械	〒806 北九州市八幡西区上の原2-4-30
宮崎	〃	曾根 孝裕	建設	〒889-05 宮崎県延岡市松原町8916-8
長崎	〃	八村 智明	応用理学	〒850 長崎市ダイヤランド4-10-6-501
宮崎	〃	岡田 豊	建設	〒880 宮崎市大塚町窪田3272 サンショウ大塚305
長崎	〃	坂井 繁雄	〃	〒816 福岡市南区高木2-7-4-304
熊本	〃	中島 重旗	建設、水道	〒862 熊本市渡鹿9-3-16
長崎	〃	松竹 英雄	建設	〒850 長崎市中島2-12-17
北九州	正頸	古賀 教彦	〃	〒805 北九州市八幡東区西本町2-5-5 (株)松尾設計
福岡	〃	藤本 要介	〃	〒811-11 福岡市早良区重留7-11-22
熊本	〃	坂井 美穂	生物工学	〒861-41 熊本市御幸笛田町60-12

☆九州地方技術センター入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先)
福岡	正頸	野見山益生	機械	〒813 福岡市東区香椎2-13-13-301
〃	〃	神谷誠一郎	建設	〒811-34 福岡県宗像市大字須恵295-5
北九州	〃	北野 誠	衛生工学	〒804 北九州市戸畠区沢見2-1-1-106
福岡	〃	中尾 幸吉	建設	〒814-01 福岡市城南区田島6-2-11
〃	〃	田中 武	〃	〒811-34 福岡県宗像市日の里8-9-4

☆(社)日本技術士会(九州支部)退会

☆九州地方技術センター退会

鹿児島	正頸	加藤 正司	建設	福岡	正頸	黒川 邦夫	建設
熊本	〃	高垣 幹雄	船舶-近畿支部へ	鹿児島	〃	加藤 正司	〃
福岡	〃	黒川 邦夫	建設-神奈川県 技術士会へ	長崎	正頸	浅岡 正彦	〃
北九州	正頸	明瀬 一行	建設	福岡	〃	松岡 省三	〃
				〃	〃	笠村 幸一	〃
				中四国	〃	山本 真也	水道

☆会員勤務先(住所)および連絡先変更

1. 小部 晃 (水道)

勤務先 〒840 佐賀市鍋島町八戸
3197-2 フジコンサルタント(株)
TEL(0952)29-7450 FAX(0952)29-7438

2. 後藤 孝士 (電気電子)

連絡先 〒803 北九州市小倉南区企救丘
2-14-1-902
TEL(093)963-1817
<次ページにつづく>

3. 北村 敬司 (建設)
連絡先 〒811-01 福岡県粕屋郡新宮町
湊坂4-4-3
TEL (092)962-4634

4. 竹中 幸生 (建設)
勤務先 〒814 福岡市早良区荒江2-7-33
日本道路興業(株) TEL (092)843-8065

5. 田中 秀男 (建設)
勤務先 〒810 福岡市中央区天神3-10-25
西日本開発コンサルタント(株)
TEL(092)724-8040 FAX(092)724-8046

◇会誌“技術士”最近号の主要目次

☆6月臨時増刊号

- 研究・業績特集
各分野における技術士活動の最近の成果

☆7月号

- 卷頭言
技術士としての誇り／古庄 源治
- 私の技術士業務
専業技術士33年／松本 健次
- 研修のページ
新しい栄養学と栄養アセスメント
／圓尾紀一郎

☆8月号

- 卷頭言
地方における技術行政／渡辺 文雄
- 私の技術士業務
My Life 生涯現役and/or悠遊自適
／空閑 忠雄
- 研修のページ
最近の航空機エンジン用材料
— 調合金の一方向凝固法／太田 芳雄
社会変化に対応した都市計画への考察
／山田 秀雄

☆9月号

- 卷頭言
対アジア技術移転の問題点／大石敏朗
- 私の技術士業務
私の経営コンサルティング哲学
／高木 秀雄
- 研修のページ
バリヤー性高分子フィルム／山田純男

6. 歳田 正夫 (建設)
勤務先 〒810 福岡市中央区白金2-8-12
丸紅建設(株)九州支店
TEL(092)531-3231 FAX(092)524-5163

7. 木村 昭二, 矢野友一郎 (建設)
勤務先 〒815 福岡市南区大橋
3-19-29昭和ビル4F
(株)計画技術コンサルタント
TEL(092)526-3637 FAX(092)526-3563

8. 山下 重幸 (建設)
勤務先 〒811-21 福岡県粕屋郡須恵町
上須恵1423-23
(株)増田特殊機械製作所
TEL(092)934-1500 FAX(092)934-1800

9. 和智 鉄也 (建設)
勤務先 〒810 福岡市中央区渡辺通1-1-9
(株)テクノ TEL (092)751-7997

10. 谷口 哲美 (水道)
勤務先 〒810 福岡市中央区大手門
1-8-16 大手門柴田ビル3F
(株)共栄設計事務所
TEL(092)724-8040 FAX(092)724-8046

—受付順、敬称略—<会員ニュースおわり>

編集後記

◦この夏は高温寡雨とでもいうのか各地で記録が続出。オリンピックならともかく、何事も平穏無事が一番。秋の台風も程々に。
◦支部の活動も益々盛ん。お陰で行事報告や自発的な投稿も過去最多。こちらの方は嬉しい記録。矢野先生の旅行記が縮まってご覧なさい。16ページ定番いつまで続くか。
(小)

発行：(社)日本技術士会・九州支部

九州地方技術士センター

〒810 福岡市中央区大名1丁目

12-61 新天ビル402

（092）771-9534

FAX (092) 731-8274

編集：九州支部・総務委員会